

支部便り

中国四国支部第17回支部講演大会の開催報告

Report on the 17th annual meeting of Chugoku Shikoku Branch of the Japan Institute of Light Metals

田中 康弘

Yasuhiro TANAKA

2025年10月4日（土）に、中国四国支部第17回支部講演大会が香川県高松市の香川大学創造工学部にて開催された。本大会は軽金属に携わる中国四国地区の支部会員が一堂に会し、各々の研究について活発な議論を行い、交流を広げるための会である。本講演会は、学術交流だけではなく、研究者の教育・研究意欲の増進ならびに若手の育成を目的とし、2009年に愛媛大学名誉教授の仲井元支部長が発案され、第1回目が愛媛大学で開催されてから、今年で17回目を迎えた。コロナ禍の際はオンライン開催もあったが、2023年以降は対面開催となり、講演大会終了後には懇親会も開催された。

本講演大会への参加者は40名で、前回より2割減少した。講演件数は学生の発表が17件、社会人の発表が2件の計19件で、講演件数も昨年より10件減少した。近年は10月中旬に開催していたが、今回は会場校の都合で2週間開催を早めたことが影響しているのかもしれない。一方で本会の前副会長で広島大学名誉教授の佐々木先生による「軽金属基複合材料開発のトレンド」の基調講演を企画することができた。

当日は、講演会開催に先立ち、支部長より挨拶が行われた。講演会は2会場で実施された。初めて学会発表を経験する学生が多く見られるのも本講演会の特徴の一つであるが、学生の発表は研究を伝えようとする熱意に満ち溢れており、活発な質疑討論が展開された。基調講演を参加者全員が拝聴し、熱膨張率抑制を目指したアルミニウムと炭素材料の複合材料界面組織TEM観察、ARB強加工法を用いて機械的性質向上を達成した複合材料など、講演者のこれまでの研究成果多くの参加学生に伝わるものとなった（図1）。

本講演会では、優秀な研究発表を表彰する制度が設けられており、学生・院生には「優秀講演賞」が、社会人には「研究・開発奨励賞」が授与される。各発表は3名の審査員によって評価され、厳正な審査の結果、今年度の優秀講演賞には以下の4件が選考された。

「機械学習を用いたAl-Mg-Si系合金押出材の機械的性質予測における第二相粒子のデータ駆動的評価」

広島大学 林 良和
「ARB加工によるひずみ量変化がAl-Si-Ge系合金の時効挙動に及ぼす影響」 岡山理科大学 佐藤星太
「Ti-(Al,Sn)-(Ni,Cu,Si)合金の構成相・組織と機械的特性」

香川大学 若本虎太郎
「Ti基板上における骨芽細胞の播種密度が遺伝子発現に及ぼす影響」 愛媛大学 大貫 脣太

また、研究・開発奨励賞には

「モンテカルロシミュレーションのための第一原理計算に基づくアルミニウム合金結合エネルギーデータベース」

広島大学 杉尾 健次郎, Zhao Jia, 前田 悠太朗, Zhai Sen, 佐々木 元

が選考された。

講演会終了後、すべての学生参加者を含む37名が参加して懇親会が開催された。基調講演を頂いた広島大学の佐々木先生より挨拶を頂戴した。優秀講演賞ならびに研究・開発奨励賞の受賞者が発表され、表彰式が行われた。また、長年にわたり当支部で活躍され、支部の発展に多大な貢献をされた佐々木先生の功績を称え、支部特別功労賞が贈呈された。皆様の受賞をお祝いするとともに、今後のご活躍をお祈り申し上げる。受賞者の集合写真（図2）を撮影し、講演大会が無事に終了した。なお、来年度の支部講演大会は岡山大学での開催を予定している。

最後に、本大会開催にご尽力いただいた香川大学の松本先生、平山先生、吉村先生をはじめ、協力いただいた学生に心より感謝申し上げる。



図1 佐々木先生による基調講演



図2 受賞者との記念撮影